

○はじめに物構研の山田所長から、J-PARC のハドロン実験施設における事故に関して説明、お詫びがあった。

(1) 討論会趣旨およびマスタープランの概要 (水木会長)

- 今回の討論会は昨年行った討論会の続きという位置づけにもなっている。
- 3月下旬に日本学術会議に提出をしたマスタープランについて説明する。
- マスタープランが学術会議に取り上げられて採択されたからといって何の保証もあるわけではないが、例えば文部科学省がこれから何かを作っていくときには学術会議に意見を聞くということもあり得る。そのため、ここで取り上げられることが、次の計画を進めるための必要条件になる可能性がある。
- 一番重要な点は、「研究者コミュニティの総意」。例えば放射光であれば、放射光ソサエティ全員の総意の下でマスタープランの内容が出てきていることが必要と言われている。
- サイエンスとして放射光がどういった方向に向かっていくかということをもとに考え、その上でそれを実現するためには、どういう光源、光が必要なのかという点をまとめた。
- タイトルは「新しい時代の科学技術立国を支える放射光科学の高輝度光源計画」
- 早急に、中型、3GeV クラスの高輝度放射光光源を建設すべきである。また、それで放射光科学は終わりではなく、10年プラス α くらいで、X線領域での回折限界光が必要になる。今の段階ではこれが ERL なのか SPring-8 II なのか他の光源になるのかはマスタープランには書いていない。
- 今日議論する中で重要な点と思っているのが、3GeV 計画というのはもともと昨年、東日本計画あるいは東北計画として、早稲田先生と濱先生に説明していただいた。それがあったからこそ、3GeV クラスの高輝度光源が必要だという形でマスタープランをまとめさせていただいた。各項目の中に主な研究施設、機関、実行組織を書く欄があるが、先ほども申し上げたように、ソサエティ全員の総意というのが必要になるので、もしこの中に KEK が無ければ、放射光コミュニティの総意ではないと見られるのは明らか。そこで、村上施設長、山田所長にお願いをして、KEK 内部で密な議論をしていただいた。最終的には、KEK の次期計画としては ERL 計画を挙げていたが、それはそれで置いておいて、まずすぐに必要であるのは 3GeV であり、それに対して KEK も協力しますということをお願いしていた。その文言を書くことが出来たので、放射光ソサエティの総意であるということを実現したと思っている。
- マスタープランの中でこれまでの準備状況という欄があったので、そこには「東日本中型高輝度施設計画が提案されているので、それに対して学会は討論会等を行いその中身を検討しているという文言を書いている。
- マスタープランには中型高輝度光源が必要であるということを書いたので、今日は東日本計画あるいは東北計画がどのようになっているかをまず話していただき、ERL の現状とコンパクト ERL が少し走り出しましたのでその経過がどのようになっているのか、それを踏まえて ERL の計画をどのようにしていくのか、次に SPring-8 II の計画が具体化しているようですので、それを話していただく。
- プログラムにはないが、KEK が中型高輝度をやるということだけが飛び交って、少し誤解されている部分もあるかと思うので、まず村上施設長に KEK がどのような形で中型高輝度を協力していくのかについて、少し話していただきたいと思う。